

最近の世界における大きな関心事に「英国のEU離脱問題」があります。DASジャパンの本部も英国にあるので、無関心ではられません。そこでこのEU離脱問題について整理してみることにしました。

## **—EUとは何か？**

もともと欧州は小さな国々がひしめき合い、さまざまな民族が集まった土地柄なので、国々の利害関係が衝突し戦争や争いごとが絶えない歴史的な背景がありました。そこで戦争や様々なもめごとが起こらないように、欧州を一つの国のようにしたら、いろいろな国々がうまく共存できるのでは、との考えがそもそものEUの始まりでした。そのためには、地域内の関税を撤廃し経済を活性化させ、米国の協力のもとにソ連に対応するという意図もありました。

## **—EUのばからしい法律**

EUは、加盟各国の代表が欧州議会で経済や金融などの決まりを作り、利害関係を調整する場ですが、決まりごとにはすべての加盟国が従う必要があります。EU規則は一説に2万以上もあるとのことですが、その決まりごとには実現性がなく、各国の事情を反映していないことも多く、ビジネスにとって大きな足かせになっているようです。例えば掃除機の吸引力は強すぎではいけない、スーパーで売られるキュウリやバナナは曲がってはいけない、データセンターの個人データはEU域外に保存してはいけないなど、現実離れしていて話にならないのです。また、選挙で洗礼を経っていないブリュッセルのエリート官僚が巨大な権限を持っていて、選挙で選ばれる欧州議会はあるものの、立法権はなく権限は限定されているそうです。それに加えEUの役人の給与は高く、平均1600万にもなるとのこと。

## **—英国へ移民流入**

もともと英国は移民を差別しない法律もあり、移民には寛大な国でもありました。ところがEUへの加盟から様子が一变します。EUは域内の国籍があれば、ビザは不要でどの加盟国に住んでもよいとの取り決めがあり、ルーマニアやブルガリアなどの貧乏な国々から大量に英国に移住してきました。EUはまた差別も禁止していますから、無料の学校、病院も利用でき、銀行の口座も開けるので貧乏国の人々にとっては英国、ドイツ、フランスなどの裕福な国は天国のようなものなのです。現在の英国には年間30万人も移住してくるとのことですから、それら移民への負担も相当な財政支出になっています。

## **—EU加盟国の経済格差**

英国やドイツをはじめとした豊かな国々は、お金を出すばかりで、貧乏な国々に補助金などの名目で吸い取られるばかりだといいます。例えばスペインやギリシャの高速道路はドイツや英国のお金で作られているとのこと。逆に経済的に恵まれている国々には、EUからの補助金はほとんど期待できないようで、これでは豊かな国々の不満は募るばかりです。

## **—色あせるヨーロッパンドリーム**

欧州を一体化するには、強固で安定した国内基盤を持つ優れたリーダーが必要ですが、今のところそのような指導者は見当たらないようです。逆にフランスやイタリアなどで同様な国民投票を求める「ドミノ現象」が起きると、EU解体の恐れすらあるシナリオも語られ始めています。

元々EU統合は、知恵にたけたフランスが、ドイツの経済力を利用しての一大プロジェクトを仕掛けたともいわれ、そこに現実主義、合理主義を信条とする英国が途中から参加し「ベルリン—パリー—ロンドン」のトライアングルの微妙なバランスの上で機能してきた面もあり、今回の英国離脱が実現すれば、EUにとって一大ショックになるはずですが。

## ーグローバル社会

EU 統合は、現代のグローバル社会の先駆的な出来事ともいえます。現代のように目を見張るような技術革新が進み、あらゆる情報が瞬時に伝わる世の中にあっては、EU が目指した人、モノ、金、サービスの自由な往来は間違っていないと思います。しかし同じ価値観を持つ民族ならいざしらず、何千年も異なる道を歩んできた民族を、欧州という域内でひとつに収めようとするには無理があるのではないのでしょうか。どのような世界であれ、異なる価値観や境遇を持った人々を融合させるためには、人々を納得させるための「強力なビジョン」、「優れたリーダー」、さらにそれを実現するための「プロセスコントロール」が必要になるのです。

日本も今回のEU離脱を対岸の火事として見過ごすわけには行きません。東京オリンピックや人手不足の時代背景もあり、今後外国人が大量に移入してくる時代を迎えます。移民をどう処遇し日本国で生き働き働いてもらうかを、今から真剣に向き合い対処する必要があります。

## ーEU 離脱の光と影

例えば英国が正式に EU 離脱をし、人、もの、金、サービスを制限したとしたら、現代の世の中の製品やサービスは国境を越えたやり取りで成り立っているものも少なくないので、よほど自国のみで完結するものがない限り、経済危機に陥るのは目に見えています。逆に EU 離脱を撤廃したとしても、前述の移民や EU の取り決めなどに問題が山積しているのです。現状の EU についての在り方など、大改革しない限り何ら解決は難しいでしょう。

最近の英国の国民投票でも「EU離脱」が立て続けに否決されています。これは若者が積極的に選挙に参加した結果だと報じされていますが、とりあえずの目の前の経済悪化を危惧しているだけに過ぎないともいえます。一方離脱を望む層は、世界で最も古くから議会制民主主義を育んできた英国の誇りを取り戻そうとする人々が大半です。また今回のEU離脱の根底には、世界共通の現象である、経済のグローバル化により恩恵を受け得るエリート層と、国際競争により雇用喪失や賃金低下にさらされる庶民層の格差が益々拡大しつつあることも大きく関係しています。

## DAS ジャパンから

### 更新審査の受審日案内！

3年ごとに実施される更新審査は、原則的に有効期限の2か月前までに受審いただくことにしていますが、有効期限日ギリギリに受審される登録組織様がおられます。このタイミングですと認証書に空白期間が生じ、入札などで認証書をご活用される場合には不都合が生じます。

業務の都合があるかと思いますが、できるだけ2か月前までに受審されるようお願いいたします。なお、それよりも前倒しする受審日には制限はありません。

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)  
代表取締役 萩原陸幸  
東京都豊島区東池袋 3-20-16-503  
[info@das-japan.jp](mailto:info@das-japan.jp)  
<http://www.das-japan.jp>